



2011年8月 第9巻第8号

今月の予定

かく語りきー聖人の言葉

「役所の仕事やビジネスのような世俗的な活動に従事している者でも、誠実さは固守すべきである。誠実さひとつが、カリユガにおける霊性の修行である。」

(シュリー・ラーマクリシュナ)

「真理に至る道で犯しうる過ちが二つだけある。最後まで道を進まぬことと、道を歩み始めないことだ。」

(ゴータマ・ブッダ)

今月の目次

- ・かく語りきー聖人の言葉
- ・今月の予定
- ・2011年 スワームー・ヴィヴェーカーナンダ生誕149年記念行事
来賓のスピーチ 上野理絵氏
- ・東日本大震災 協会の支援活動報告
2011年6～7月
- ・忘れられない物語
- ・今月の思想

・生誕日・

スワームー・ニランジャナーナンダ

8月13日(土)

クリシュナ・ジャンマシュタミ

8月22日(月)

スワームー・アドワイターナンダ

8月28日(日)

・行事・

東京例会

講話 バガヴァッド・ギーター(無料)

9月3日(土) 14:00～16:00 東京・

インド大使館(電話 03-3262-2391)

お問い合わせ 逗子協会 046-873-0428

逗子例会

9月18日(日) 10:30～16:30

逗子本館

講話のテーマ：幸せと瞑想

ナマステ・インディア

9月24日(土)～25日(日) 10:00～

20:00(25日は19:30)

東京・代々木公園イベント広場

日本ヴェーダーンタ協会は『ガンガー CD ショップ』という名称で出店し、書籍、CD 等様々な品物を特別価格で販売します。

皆様のご参加をお待ちしています。

2011 年 スワームー・ヴィヴェーカー ナンダ生誕 149 年記念行事 東京・ インド大使館 来賓のスピーチ 上野理絵氏

2011 年 5 月 22 日に東京・インド大使館のオーディトリウムで開催されたスワームー・ヴィヴェーカーナンダ生誕 149 年記念行事でのスピーチを、本ニューズレターで数号にわたりご紹介しします。第 1 回目の本号には、在日インド大使館主席公使サンジェイ・パンダ氏の開会の挨拶を掲載しました。

(本号でも引き続き、2011 年 5 月 22 日に東京・インド大使館のオーディトリウムで開催されたスワームー・ヴィヴェーカーナンダ生誕 149 年記念行事でのスピーチをご紹介します。今回は、インドの紅茶・スパイスの輸入会社コンパス社長 上野理絵氏のスピーチです。)

みなさまこんにちは。私は、陶器の街、そして、日本一暑い街としてここ数年で有名になりました、岐阜県多治見市に住んでおります、上野理絵と申します。本日は、このようなすばらしい会

でのスピーチということでお話をいただき、最初は非常にとまどいもございました。しかし、私にとっての貴重な経験の場を頂戴したと謙虚に受け止め、仕事を持つ主婦の代表として、一生懸命スピーチをさせていただきます。どうぞよろしくお願い申し上げます。

スピーチに先立ちまして、今回、東日本大震災で被災にあわれましたすべての方々に心よりお見舞い申し上げますとともに、残念ながらお亡くなりになりました方々にこの場を持ちまして、心よりご冥福をお祈り申し上げます。



私は昭和 35 年に東京都中野区で生まれ育ちました。現在 50 歳です。23 歳で結婚すると同時に、銀行員だった主人の勤務地である大阪へ移り住み、その後、京都、名古屋と転勤で移動し、最終的に、現在の岐阜県多治見市に住んで 21 年になりますが、子供を育てながら、主婦業をしながら、ビジネスを

し、現在はコンパスという名前で、インド紅茶やインドカレーパウダーなどを販売する会社を経営しております。

短大を卒業すると同時に、20歳の時に本田技研工業株式会社に入社いたしました。23歳で結婚のために会社をやめ、それまで生まれ育った東京を離れ、主人の勤務地であった大阪へ移り住みました。

私は子供の頃から水泳を続け、どうしても水泳の先生になりたい、という夢があったので、短大に入学すると同時に、18歳からスイミングのインストラクターのアルバイトを始め、3年前まで足掛け約30年間、スイミングのインストラクターをアルバイトで続けておりました。

子供のころは、自然と神様がいつも隣に感じるように感じて、毎日寝る前に布団に入っては、空想の世界で神様とお話しながら眠るような子供でした。高校の時、友達と遊びに行った横浜で、ガイドブックの案内通りに歩いていた時に偶然立ち寄ったキリスト教会に、今でも忘れることができないほどの衝撃と感動を覚えました。生まれて初めて教会というところに足を踏み入れたのですが、心の中と、カラダの中に、稲妻が走るような、そんな感覚の感動を覚え、なんとも言えない落ち着きと感動を味わいました。その後、その場

所が忘れられず、一人でその教会を何度も訪ね、一人で長い時間、そこに座っているような少女時代を送りました。今思えば、瞑想していたのだと思いますが、そのころは何もわからず、ただ、誰もいないその教会で座っていると、心の中が洗われ、何ともいえない落ち着きと平安が自分の中であふれ出てくる感覚が、本当に好きで仕方がなく、いつまでもそこにいたい、という感覚でした。また、高校3年の哲学の授業の時、「神様について」という作文を書かなければいけなかった時に、迷いもなくスラスラと、イエス・キリストのことを原稿用紙何枚にもわたって書いたほど、その教会の影響がもつて、イエス・キリストの存在が、自分の中にあつたようです。神の知識などまったくない当時の私でしたが、神に対しての思いだけで原稿用紙が埋まったのを今でもはっきりと覚えています。

その後、さきほども申し上げましたが、就職をし、結婚をし、子供を産みました。子育てをしている時に、ふと、自分はこのままただの主婦として一生を終えるのだろうか？一生懸命会社で仕事をしていた時は、自分は名前と呼ばれていたのに、結婚すると同時に「誰誰さんの奥さん」とか、「何々くんのおかあさん」と呼ばれるようになり、「上野理絵」という私個人は、このままなくなってしまうのだろうか？と一抹の不安を覚えるようになりました。今考

えると、それはとてもくだらない発想で、スワミジが「世俗の仕事というものはない。すべての仕事は宗教であり礼拝である」と言われているように、主婦として一生懸命家の仕事をまっとうすることは、神に捧げる仕事であり、立派な礼拝であるというカルマ・ヨーガであるにもかかわらず、当時の無知な私は、それに対しての不安や疑問を持ち始めたのでした。

また、若い頃にはたくさんの夢があったのに、結婚して子育てをしているうちに、「主婦が夢を持つことなんてとんでもない」、「夢はあきらめ、夢は寝て見るもの」、「子供を育てることと、家を守ることに主婦の仕事」、などという世間の風潮に、私自身、本当にそうなのだろうか？という疑問を持ち始めていました。実は私は小学校の5年生の時から、絶対に客室乗務員になろうと決心し、その時から自分でできる努力を一生懸命していました。短大入学と同時に、夜、客室乗務員の予備校に通い、絶対に自分は客室乗務員になるんだ、という強い夢を持って短大を卒業する20歳になるまでその夢の実現のためだけに生きて来ました。スイミングのインストラクターも夢の一つではありましたが、客室乗務員への夢は、それとは比較にならないほど強いものでした。それほど思いであったにもかかわらず、当時付き合っていた主人が、空は飛行機が落ちたら危険だから、結

婚をしよう、ということになり、やはり女性ですから、結婚へのあこがれもあったこともあり、とりあえず結婚まで腰かけのつもりで一般企業に就職をし、客室乗務員になる夢を簡単にあきらめ、結婚をしてしまいました。ですが、そのちょうど1年後、子供を出産し、病院から退院したその日に、たまたま手に取った新聞に「客室乗務員募集」という記事が載っているのを目にしました。そこには条件として、「未婚であること」と書いてあり、さらには、年齢制限が、ちょうどその時の自分の年齢である24歳まで、と書いてありました。それを見た瞬間、自分が夢を簡単にあきらめてしまったことへの後悔が一気に押し寄せ、自分は何で長年の夢をなぜあんなにも簡単にあきらめてしまったんだろうというくやしさと後悔で涙が止まりませんでした。悩みに悩んで、いったん、嘘で離婚届を出して、そのラストチャンスにかけてみようか、とも思いましたが、出産したばかりの子供の寝顔を見て、それはできない・・・と気付いた瞬間に、涙が止まりませんでした。

その後29歳で名古屋に転勤になりましたが、その住まいが飛行場の近くで、毎日飛行機の音が聞こえる場所でした。なんとなく忘れかけていた後悔の思いが、また再びよみがえり、くやしさと後悔で、もとは戻れない自分に、くやし涙、といった日々が続いた

ある日、毎日楽しそうで、生き生きとしている近所の主婦の方と出会いました。なんとなく自分がこのままではいけない、と思っていた時でもあり、過去の後悔に悔んでいる時期でもあり、そんな時に、近所の生き生きと輝いている主婦の方がやっている仕事を誘われ、主婦であっても、子育てをしても、自分の夢がこれで実現できる、と実感し、そのビジネスをスタートさせる決断をしました。

主婦である私が、新しい事業をやろうとすると、たくさんの壁にぶつかりました。一番最初の壁は、主婦が仕事することに反対だった主人の反対でした。でも、私は、何年もかけて主人を説得しました。主人のお給料で、家族はある程度の豊かな生活はできます。でも、主人の両親を、どこかいい温泉に何泊も連れて行ってあげることはできませんでした。多治見から私の両親が住んでいる東京へ、年に何回も帰ることはできませんでした。私の両親からしたら孫である、私の息子を、会わせることすらできませんでしたから、その事実を何度も何度も主人に話しました。自分の仕事で目標を達成できれば、それは自分の成功だけでなく、自分のまわりも幸せになれる、という確信がありましたので、絶対に説得をしてでもこの仕事をやり遂げようという強い意志がその時の私にはありました。

何で主婦が、パートではなく、自分の事業をおこすの？と、不思議な目で私を見た友人もおりました。でも私は友人に言いました。「もし、自分に夢があって、それを主婦だから、という理由だけで諦めているのであればそれは違う」と。「自分の夢があるのであれば、それは絶対に実現できるし、それを実現しなければならない」ということも言いました。

近所の人たちは、私が事業をしていることで、引っ越してきた当初は、白い目で私を見ていました。しかし、10数年かけて、私の行動や態度で人々の誤解を解いて来ました。今では、私を白い目で見る人はいません。まわりの人たちは、少しずつ、少しずつ、私が自分の私利私欲だけでビジネスをしているのではない、ということに気が付いてくれて、今では近所が家族のようになり、親同士はもちろん、子供たちまでが私の家に来ては、親戚のような付き合いをしています。今では、過去に自分がやり始めたビジネスを、周りの反対や、中傷とも思える言葉の数々や、うまく行かないことの連続に負けずに、あきらめずに続けて来てよかったと、過去を振り返り思っております。

スワミジは、「自分自身を信じなさい」ということを何度も何度もおっしゃっています。そしてこうもおっしゃっています。「失敗を気にするな。失敗のな

い人生なんてありえない。もがき苦しむことがなければ人生に意味はない。苦しみや間違いを気に病むな。私は牛が嘘をつくの聞いたことがないけれど、牛は牛であって人間ではない。だから失敗や小さな後退を気にするな。1000回でも理想を掲げよ。そして、もし1000回失敗したら、さらにもう一度チャレンジせよ。」、今になって思えば、このスワミジのメッセージを、私は過去の経験や仕事を通してみんなに伝えたいと思います。

一見マイナスや、壁に思える出来事は、何かを始めたらずきまとうものです。それは向かい風のようなもので、自分が立ち止まっている時には風を感じないのに、歩き出すと風を肌で感じ、もっとスピードを上げて走り出すと、その風は歩いていた時よりももっともっと強く肌を感じるものです。動きだしたことによって、風を感じるのは当たり前前のことで、私は自分に起きる様々な一見マイナスにも思える出来事をそうとらえていました。そして、自分が仕事を始めることで風をおこし、自分にとっての風を、相手の「追い風」にしてあげられたら・・・、そう思うようになりました。つまり、私と同じように、主婦として、母として、自分の夢をあきらめてしまっている自分のまわりの人たちに、「夢は実現できるんだよ、だから、人生をあきらめなくていいんだよ、だから私と一緒にがんば

ろう！」という気持ちで、ビジネスをして来ました。

スワミジのお言葉にはこのようにもあります。「どのような人生であろうと失敗ではない。宇宙には失敗というものはない。人は何百回となく自分自身を傷つけ、何千回となく倒れるだろうが、最後には自分が神であるということを知るのだ」

悟るまでには、相当の時間がかかります。でも、悟る前にまず、失敗を恐れずに、自分の人生を前向きにとらえ、自分がどうしたいんだろう、とまず考えるところから始まると思っています。失敗を恐れて何もしないことが一番よくないことで、これはスワミジもおっしゃっています。「実践は絶対に必要だ。毎日座って一時間私の話を聞いたとしても、実践しなければ一步も前進しないだろう。すべては実践にかかっている。我々はこのようなことを自分で経験しなければ理解できない。自分の力でこのようなことを見、感じなければならない。説明や理論を聞くだけではだめだ。」と。

子育てにおいても、仕事においても、人生においても、失敗やうまくいかないことはつきものです。うまく行かない時こそ、信仰心のない人でも、人は神を見ます。それによって成長ができますから、そのような出来事は、神が

与えてくださった、とても貴重な出来事だと思っております。そのことを、仕事を通して知り合った仲間たちに、私は言葉でなく、実践で見せて来ました。スワミジのお言葉にある、「まず自分を、それから神を信じたまえ」という、このことを私は知らず知らずのうちに実践していたような気がします。

話を戻します。最初に始めたビジネスが、最初はうまくいかないことだらけでしたが、それらの失敗に対して、うまく行っているビジネスの先輩たちからアドバイスをもらいながら、少しずつ結果を出して行ったことで、まわりに、一人、二人、と、自分と同じように、主婦でも夢を持って輝いた人生を送りたい、という仲間が集まってきました。そしてその当時、友人からの紹介で聖書を学ぶ機会を与えてもらい、毎日毎日聖書を読むようになりました。そこにはたくさんの人生のヒントがありました。「求めよ、そうすれば与えられる。探しなさい、そうすれば見つかる。扉をたたけ、そうすれば門は開く。」この当たり前の事実は私にとって衝撃的でした。私の母は子供のころから私に「あなたはできないことなんか何一つない。」と私に毎日のように言っていました。何かうまく行かなかった時でも母は、「あなたはできる」と言って笑っていました。おかげで私は子供の頃から、できないことなんて何一つない、と信じることができました。私の

息子にも、同じように子育てをしてきましたから、27歳の息子も、私と同じく「できないことなんて何一つない」と思って生きているようです。おかげで彼も、非常に思い通りの人生を歩めているようです。母のおかげで「どんなことでもやればできる」という信念を持っていたのに、世間へ出ると、「やめておきなさい、無理だから」という人がとても多かったのに本当に驚かされました。まわりにあまりにも同じネガティブな言葉があると、人はそのネガティブな意見が正しいのではないかと勘違いしてしまうことがあります。私はビジネスでたくさんのネガティブな言葉を受けた時に、たまたま自分が持っていた「やればできる」という真実が、言葉は違えど聖書に載っていたことに、最高の喜びを感じました。スワミジも、「これらのキリストの言葉はでっちあげでも作り話でもなく、文字通りの真実である」とおっしゃっています。

その後、聖書の存在を教えてくれたその友人が逗子へ引っ越し、その頃に日本ヴェーダーンタ協会を、その友人から紹介されました。今から9年前です。友人は9年前に私にこう言いました。おもしろい場所と出会った、そこには僧侶がいて、瞑想できる場所があって、霊的な本が好きなだけ読める。すごくいい場所だから、絶対に行くといよ、ということから、ヴェーダーン

タ協会とのお付き合いが始まりました。

ちょうどこの頃、自分自身のビジネスはある程度大きくなり、時代はバブルの崩壊が起き、人々が目に見える物質という世界観から、目に見えない霊的なもの、つまり「本物」というものへ目が向くような時代になって来ました。私が最初にビジネスを始めた頃は、世の中には「新興宗教」という、間違っただけの形態の神を崇める団体が目立つようになり、「神」という言葉を出すと、人々が怪訝な顔をする時代でした。それが時が経つにつれ、人々が心の癒しを求めようになったり、神の存在を意識する時代になるとともに、私のビジネスに対する思いに変化が起きました。

自分の夢は、ビジネスによって実現しました。欲しいものも好きなだけ買えるようになりました。実家の東京へも、好きな時に帰れるようになりました。でも、夢が手にいった時に、人は「もっと、もっと」・・・と、欲望が大きく深くなって行くことに気がづきました。そして、その思いは執着心に変化し、執着心によって、心の乱れが起きることに気がついたのです。自分が豊かになることで、他人に対してもたくさんのお金を稼ぐことができました。たくさんのお金を稼ぐこともできました。でも、自分自身はこのまま物質的な欲求ばかりを追っていることに疑問を感じ、その時に、ヴェーダーンタ協会での教えが

私の中でいくつかの答えをくれました。

別の角度から話をすると、私にはその気づきを与えてくれたヴェーダーンタ協会の教えがありましたが、まわりを見ていると、それはそれは恐ろしいほどの現実がありました。「人」を助けるためにビジネスをしていた人たちが、ビジネスの結果がうまくいけなくなった時に、今度はその「人」を利用するようになっていったのです。自分のビジネスの結果の為に、人を利用するようになって行った人たちを目の当たりにした時に、物質的な目に見えるものが「目標」だった時、人は、その目標が達成できなくなると、自分の結果や地位に対しての執着心が出て来て、「手に入れたものを離すのが嫌だ」という気持ちが出てくるのだ、ということを見せつけられ、その時に、何か違う、という疑問がわいてきました。いったん手に入れてしまうと、それが自分の所有物のように人は錯覚し、それを手放すことに恐怖心が出て来て、それをとどめておくために、もっともっと悪い方向へ進んで行ってしまおう、つまり「負のスパイラル」が始まってくるといふ現実を見せつけられました。スワミジが「この人生は短く、世のつまらぬ事物は移り変わる」と言われているように、世の常なるものは何もないにも関わらず、いったん手にしてしまった時に人の悪い執着心がどんどん自分を陥れていることに、気がつかないこ

とを悲しく思いました。また、すばらしい理念を持った創立者が作った会社であっても、創立者の死などによって世代が変わることで、すばらしかった会社が、そうでもなくなってしまう・・・という事実も目にしてきました。そういったさまざまな現実を見て来た時に、「永遠」なるものは神しかないのだと、ということ、タクールやスワミジの教えにより学びました。

日本の経済は、1980年代の、バブル崩壊の前は、アメリカの資本主義にあこがれ、日本がまだ物質の夢に追われている時代、多くの人々が海外旅行や外車、ブランド品に価値を見出していました。しかし、バブルがはじけ、経済が下がりはじめ、みんなが元気がなくなり、オウム事件、神戸の震災、9月11日のテロ、リーマンショックといった事柄が次々と起こり、円高によって生産拠点が海外に移り、不法なリストラ、デフレスパイラルといった事柄が、もともともと日本人の元気をなくし、物質の豊かさから価値観が変わって行きました。そういった時代と、自分の疑問がちょうどぶつかった時に、スワミジのカルマ・ヨーガと出会いました。子供の頃から、自分は知らないうちにスワミジの考えで人生を生きて来たことを、カルマ・ヨーガやバクティ・ヨーガの本を読んで再確認し、これから先、このスワミジの考えを教えとして人生を歩んで行けば間違いがない、

と確信をいたしました。

スワミジが、「アメリカにはパンではなく霊性を。インドにはまずパンを」という言葉で、「物質と霊性を融合させた生き方が出来たら、日本人に新しい価値観が生まれる」という発想を、ヴェーダーンタ協会を紹介してくれた友人とともに持つことで、その友人とともに、「物質と霊性を融合させた会社を創ろう」ということで、「コンパス」という会社を創りました。永遠なるものは神のみであることも学び、でも、スワミジが「まず自分を、それから神を信じたまえ」とおっしゃっています。これは自分の子供の頃からの理想の生き方で、神様がいることは絶対的に信じていた自分、でももう一方で、自分の夢を実現できないで悶々とする日々を送っていた自分、そして、自分の夢を実現するためにビジネスをスタートさせたけれど、その結果にあまり執着することなく、自然と結果を神にささげていたおかげで、悩むこともなく、執着することもなく、主婦や子育てをしながらビジネスの成果をあげることができた、というこの事実・・・これが、人々の求めているスワミジの教えなんだと言うことを、ビジネス通してみんなに伝えて行きたい、という思いから、現在のコンパスという会社を立ち上げました。

たまたま神の恩寵によって、インド紅

茶との出会いがあり、それが本当に高品質でおいしいものだったことで、全国的に評判が広がり、今は、仕事を通して、霊的な成長をし、物質的にも霊的にも結果をすべて神にささげ、豊かな人生、意義のある人生をみんなが送ることができるような道を作って行きたいと思っています。スワミジがおっしゃっています。「すべての宗教の理想は一つ。自由を得ることと、不幸のなくなることである」と。私は自分が生きて来てこう思います。

若い頃は、いろいろな経験をするために、本当に自由に生きることができません。大人になって行くと、さまざまなことが自分の生きて行く枠を狭くして行きます。結婚をして、ご主人様のもとで仕える生き方で、自分の自由な時間がなくなり、子供が生まれることで、一切の自分を放棄し、子供のために自分の時間をすべて費やし、家族のために奉仕をし、その中でパートをしますと、ますます自分の時間がなくなり、それがいつまで続くのかという不安が起き、それが続くと心の平安がなくなり・・・でも、私は、スワミジの教えで、自分の生き方に確信が持てました。家のことは、主婦ですから、神にささげる気持ちで掃除や洗濯や炊事をします。子供は、神様からの預かりものですから、子供を通して「無私の奉仕」を学ぶために、そして自分を成長させるために、子育てをします。そし

て子供に執着することなく、そのすべての結果は神にささげます。そして、主婦でもなく、母でもなく、「自分」という個を成長させるために、まずは、夢を持つこと、そして、その夢に対して、一生懸命努力すること、そしてその結果のすべてを神にささげた時、自分の夢は実現し、物質的にも霊性面においても、自由に豊かに平安になります。その実践を通して、また、一人でも多くの人に対して、この考えを伝えていくことが自分の与えられた役割だと思っています。自分もまだまだ成長過程です。でもスワミジのたくさんの言葉で、毎日が修業と思い、努力をしております。私と同じ思いをしている方々に、スワミジのいくつかの言葉を贈り、最後の言葉とさせていただきます。

「弱さの治療法は、弱さについてくよくよと思い悩むことではなく、力強さを思うことである。人には強さを教えなさい。それはすでに我々の中にあるのだから。」

「祝福を数えて、問題を数えるな。愛する祖国の恵まれない兄弟姉妹のために、いかに役立つかを常に考えなさい。」

「自分自身を信じるという理想ほど、我々に役立つものはない。自分自身を信じることの大切さがもっと広範囲に

わたって教えられ、その教えが実践されていたら、現存する悪や不幸の大半は姿を消していただろう。」

「信じること、信じること、自分自身を信じること、神を信じること」

本日は、貴重な体験をさせていただき、ありがとうございました。このような機会を与えてくださいました、スワミー・メダサーナンダジと、そして、タクール、マザー、スワミー・ヴィヴェーカーナンダジに、心から感謝いたします。

東日本大震災 協会の支援活動報告 2011 年 6~7 月

インド ベルル・マートのラーマクリシュナ・ミッション本部、および様々な方面の皆様から寄せられた多くのご寄付により、日本ヴェーダーンタ協会は東日本大震災の被災者支援活動を継続・拡大することができ、心より感謝しております。協会の 6~7 月の活動を報告いたします。

6 月

6 月 21 日、岩手県の支援物資倉庫である岩手産業文化センター『アピオ』に、現在必要な物資を問い合わせ、洗濯用洗剤 1kg×80 個、台所用洗剤 250g×150 本、調理用手袋×2 千組を宅配便

にて送りました。この支援物資は、逗子のお店で購入したものです。岩手県の 280km に渡る沿岸地域の大半は津波の甚大な被害を受け、町や村が流されたり港湾施設が破壊されたりしています。



7 月

1) 暑さの到来と共に避難所で夏用の衣類が不足していることを知り、協会では被災地にポロシャツと T シャツを送ることにしました。卸売業者を探してポロシャツ 800 枚と T シャツ 400 枚を購入したところ、業者の方が購入の目的を知りポロシャツ 100 枚を寄付してくださいました。7 月 4 日、岩手県陸前高田市役所の災害対策本部に、ポロシャツ 400 枚、T シャツ 400 枚を宅配便にてお送りしました。

2) 7 月 5 日、スワミー・メダサーナンダと協会スタッフ 3 名は、神奈川県逗子市の協会を早朝に出発し、600km 離れた所にある岩手県陸前高田市役所の災害対策本部へ向かいました。到着

には車で 8 時間掛かりました。現地でスタッフの方と打ち合わせの後、広田地区災害対策本部である陸前高田市立広田小学校へ、ポロシャツ 500 枚をお届けしました。小学校の校庭に建てられた仮設住宅を訪問してお話を聞くなど、地元の方々や子供たちと触れ合うことができました。

3) 7 月 10 日 (日)、スワーマーと信者・ボランティア合計 18 名は、埼玉県加須市にある廃校校舎施設の旧埼玉県立騎西高校校舎を訪問しました。ここでは、福島第一原子力発電所の五号機と六号機が町内に立地している福島県双葉町の町役場と住民約 900 人が避難所生活を送っておられます。



協会はこの被災者の方々に、義援金を活用して昼食の炊き出しをご奉仕申し上げました。ボランティア活動の開始前に、町民の方々を代表され双葉町副町長の井上氏から、スワーマーにお礼の言葉をいただきました。メニューはサフランライス・チキンカレー・コ

ールスローサラダのセットで、調理はカル Катタ・レストランのチャンドラー二氏に委託しました。



この日は約 300 人の方々が仕事に出たので、600 人の方々にランチを提供しました。日頃の日本食とは違った本場インドのカレーライスを大変に喜んでくださり、おかわりされた方も多数いらっしゃいました。校舎の食堂で召し上がる方もいましたが、多くの方は家族のためにプラスチック容器に入れたカレーを各自の区画に持ち帰っていらっしゃいました。





忘れられない物語

敬われるには、まず仕えなさい

砂漠の一角で、イスラム教の修行僧が一人座って瞑想をしていた。そこへ君主が通りかかった。修行僧は世俗のことを気にかけなかったので、顔を上げようともせず全く気に留めなかった。

権力を誇る君主は、この振る舞いに対し怒り狂って言った。「ぼろをまとったこんな坊主など動物同然だ。」

高位の僧が修行僧を叱った。「世界のすべてを支配する偉大な君主様がそばにいらしたのに、お前は立ち上がってお辞儀をしなかったのだね。なぜそんなに無礼なことをしたのだ。」

修行僧は答えた。「お辞儀をするのは、君主から見返りを期待している者たちだけだと君主に教えてやってください。君主は臣民を守るためにいるのであって、臣民は君主の言うことを聞くためだけに作られたわけではありません。君主は大きな富も栄光も手にしているが、貧しき者たちのために見張りを行うのが務めです。羊は羊飼いのために作られたのではなく、むしろ羊に仕えるために羊飼いがいるのです。ご覧なさい。今日は、成功し何の心配もなく暮らしている男が一人いて、残りの者は皆辛い思いをしながら必死に生き延びています。しかし明日かあさってになれば、愚かな考えで思い悩んだ頭も大地の塵と化していくのです。運命に命じられれば、王も奴隷もありません。墓を掘り起こして埃まみれの骨を見てご覧なさい。どれが富者の骨でどれが貧者の骨か区別がつくでしょうか。」

君主は修行僧の言葉に心を打たれ、こう言った。「私に願いを言ってみよ！」

修行僧は答えた。「では、二度と私の邪魔をしないでください。」

君主は「私に助言を与えてくれ」と懇願した。

修行僧は言った。「今は富があなたの手にあるが、手遅れになる前に気付いてください。この富もこの権力も、手から手へと渡りゆくものであることに。」

今月の思想

「小さなものにある真実を真剣に受け止めない者は、大きなものにおいて信頼されることはない。」

(アルベルト・アインシュタイン)

発行：日本ヴェーダーンタ協会

249-0001 神奈川県逗子市久木 4-18-1

Tel: 046-873-0428

Fax: 046-873-0592

Website: <http://www.vedanta.jp>

Email: info@vedanta.jp